



Roche ロシュ グループ

2009年第1四半期 連結決算概要

中外製薬株式会社
財務経理部長
板垣 利明

2009.4.24

将来見通し

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。

実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

注：本資料の数値は億円未満を四捨五入して表示
増減、%は億円単位で表示された数字で計算

第1四半期業績 概要

■ 大幅な増収増益決算(前同比)

- 売上高 43.1%増、タミフルを除く製商品売上高12.6%増
 - ・ 国内販売好調。がん領域は36.0%増、トップシェア*を維持
 - ・ 海外製商品売上高は円高とバイオ後発品の影響で19.2%減
- 営業利益 73.3%増
 - ・ 増収に支えられ売上総利益は23.8%増
 - ・ ただし、ロシュ品売上高比率の増加等により原価率(対製商品売上高)は9.2%ポイントの悪化
 - ・ 販管費は7.4%増
- 経常利益・純利益は倍増
 - ・ 営業利益の増加に加え、為替予約評価益が営業外で発生

*市場の範囲は中外製薬定義による
シェアの計算はIMSデータに基づく

Copyright IMS Japan KK,2009

2009年3月YTD

無断転載禁止

損益の概要 1-3月実績

【億円】	2008年 1-3月		2009年 1-3月		増減	
		売上 (%)		売上 (%)		(%)
売上高	662		947		+285	+43.1
製商品売上高	659		929		+270	+41.0
タミフルを除く	644		725		+81	+12.6
タミフル	16		204		+188	+1,175.0
その他の営業収入	2		18		+16	+800.0
営業利益	101	15.3	175	18.5	+74	+73.3
営業外収益	13		54		+41	+315.4
営業外費用	11		2		▲9	▲81.8
経常利益	102	15.4	228	24.1	+126	+123.5
特別利益	9		3		▲6	▲66.7
特別損失	1		0		▲1	▲100.0
当期(四半期)純利益	67	10.1	138	14.6	+71	+106.0

- タミフル +188億円
うち行政備蓄等 +142億円
- 製商品売上高(タミフルを除く)
P.5参照 +81億円
- その他の営業収入 +16億円
マイルストーン収入
- 営業利益
P.6参照 +74億円
- 営業外収支 +51億円
為替予約評価益

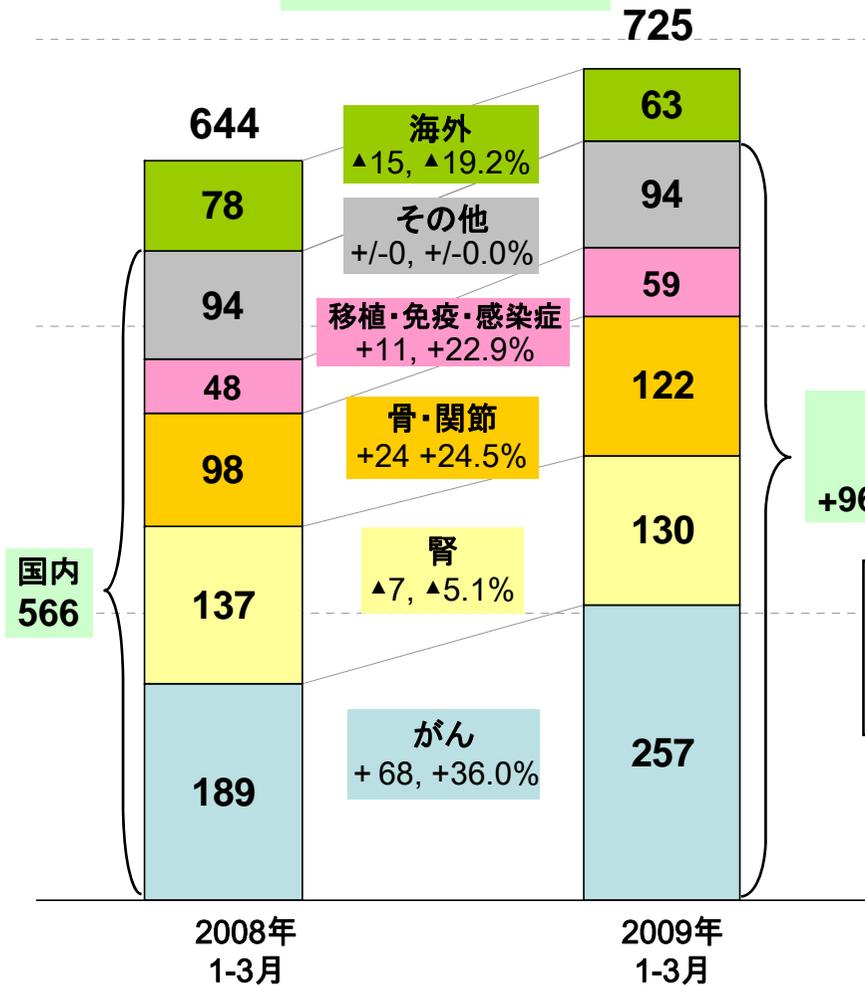
期中平均レート (前年) USD: 105.43円、GBP: 208.56円、CHF: 98.58円、EUR: 157.85円
 (当年) USD: 93.51円、GBP: 134.34円、CHF: 81.55円、EUR: 122.06円

製商品売上高(タミフルを除く)の増減内訳 1-3月実績

【億円】

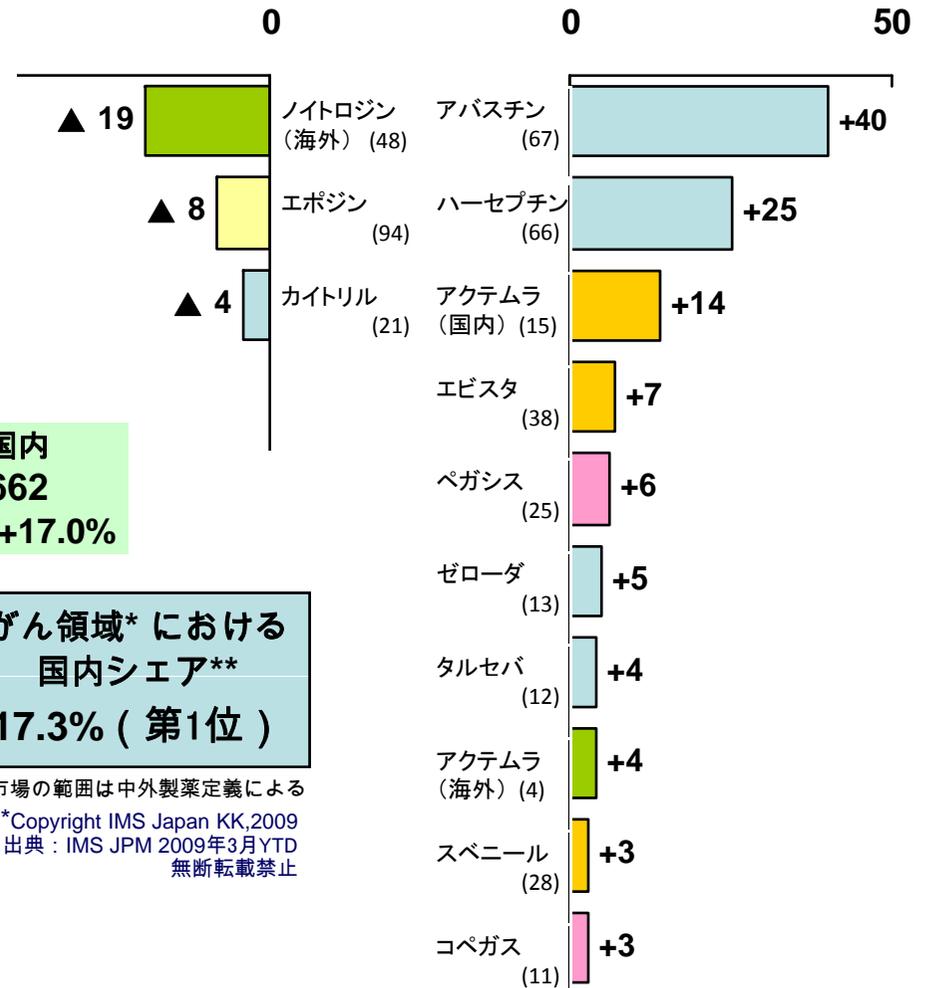
製商品売上高

(タミフルを除く)
+81, +12.6%



主要製商品 売上高増減

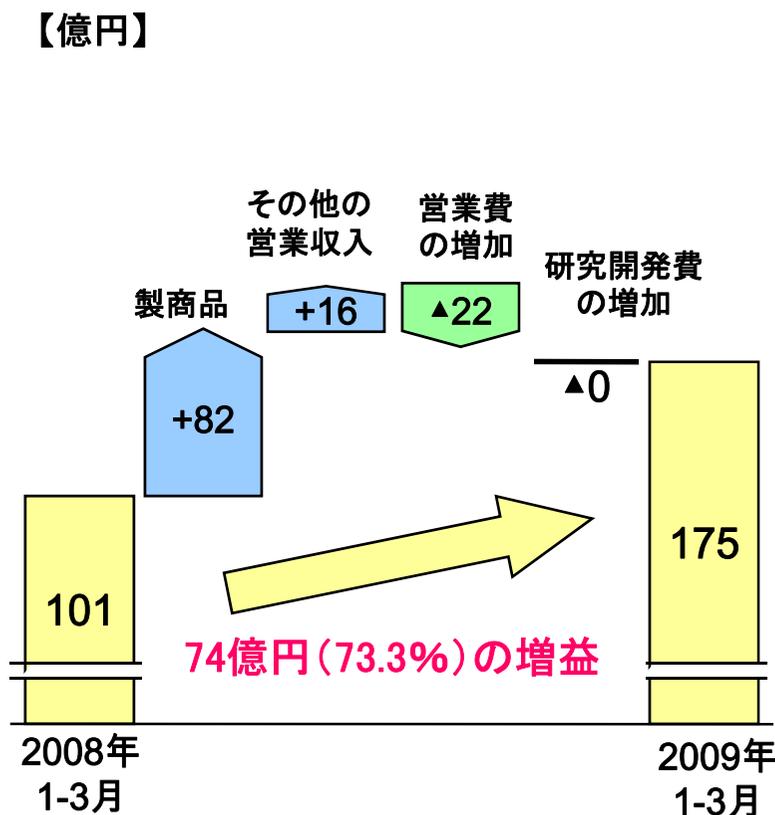
前年同期比、()内:2009年実績



がん領域* における
国内シェア**
17.3% (第1位)

* 市場の範囲は中外製薬定義による
** Copyright IMS Japan KK, 2009
出典: IMS JPM 2009年3月YTD
無断転載禁止

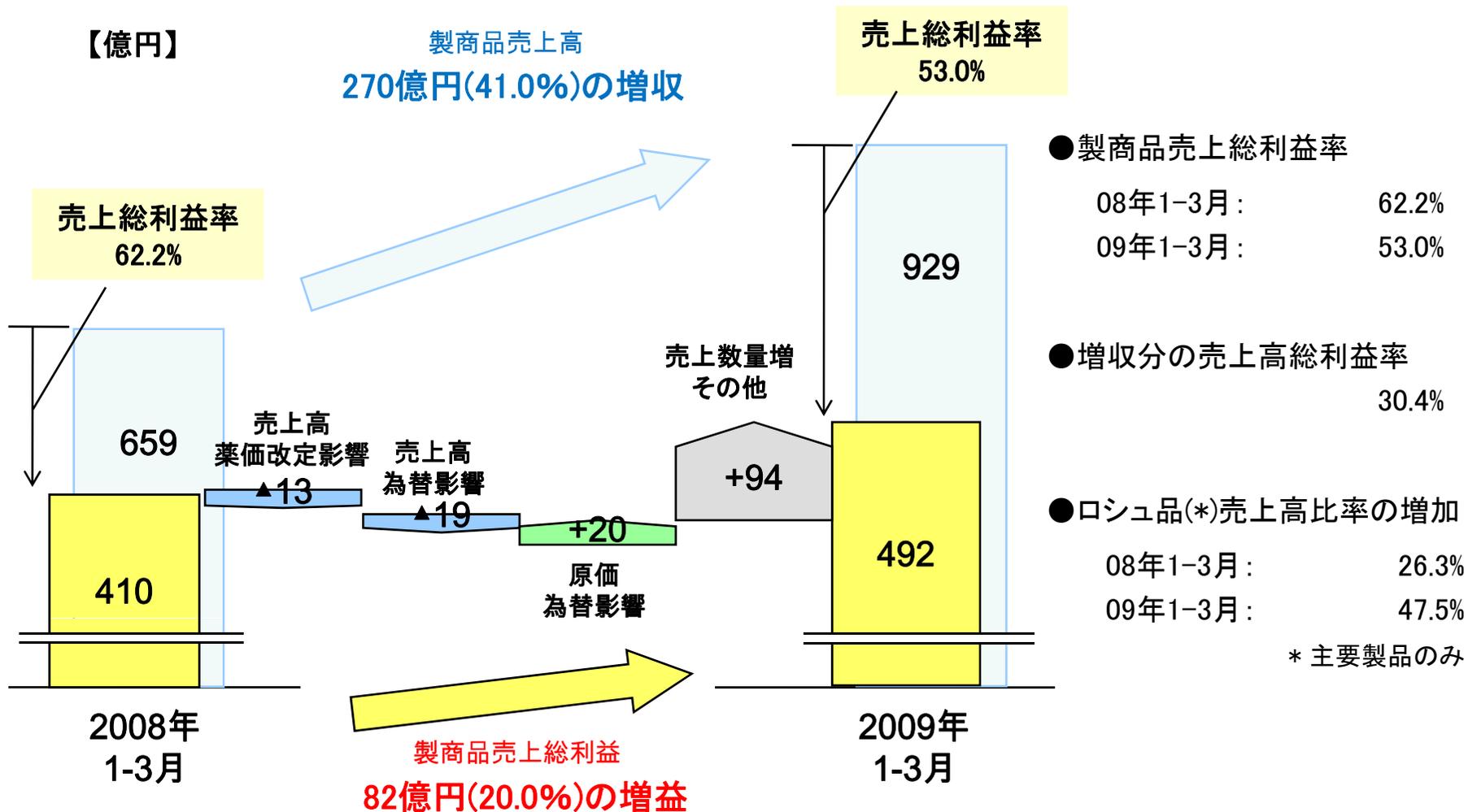
営業利益の増減内訳 1-3月実績



【億円】	2008年 1-3月	2009年 1-3月	増減	(%)
売上高	662	947	+285	+43.1
売上原価	250	437	+187	+74.8
売上総利益	412	510	+98	+23.8
うち 製商品	410	492	+82	+20.0
うち その他の営業収入	2	18	+16	+800.0
営業費	194	216	+22	+11.3
研究開発費	118	118	+0	+0.0
営業利益	101	175	+74	+73.3

- 製商品売上総利益の増加 +82億円
タミフル、国内がん製品売上等の伸長
- 営業費の増加 ▲22億円
新製品等(アバスチン、アクテムラ等)の市場浸透
人件費(退職給付費用)・IT費の増加

製商品売上総利益の前同比較 1-3月実績

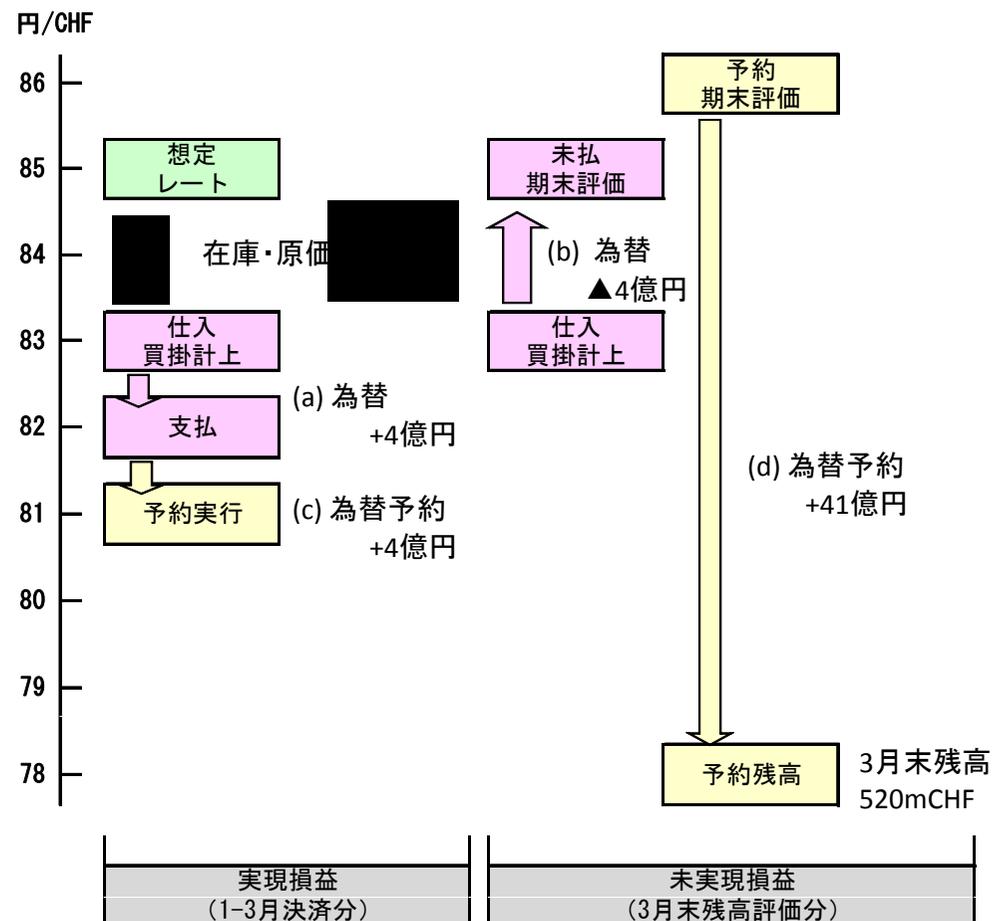


損益の概要 1-3月実績

【億円】	2月4日 公表予想 1-6月	2009年 1-3月		2008年 1-3月
			進捗率 (%)	対半期 進捗率 (%)
売上高	1,995	947	47.5	45.4
製商品売上高	1,940	929	47.9	45.5
タミフルを除く	1,550	725	46.8	44.9
タミフル	390	204	52.3	100.0
その他の営業収入	55	18	32.7	20.0
営業利益	350	175	50.0	43.7
経常利益	355	228	64.2	42.0
当期(四半期)純利益	220	138	62.7	35.4

利益に対する為替変動の影響額

【億円】	2009年 1-3月
売上高	▲2
売上原価	+4
販管費	+0
営業利益	+2
営業外収支	+45
為替 差損益	+1
実現	(a) +4
未実現	(b) ▲4
為替予約 評価損益	+45
実現	(c) +4
未実現	(d) +41
経常利益	+47





Roche ロシュ グループ

研究開発の状況

中外製薬株式会社
プロジェクト推進部長
高梨 契典

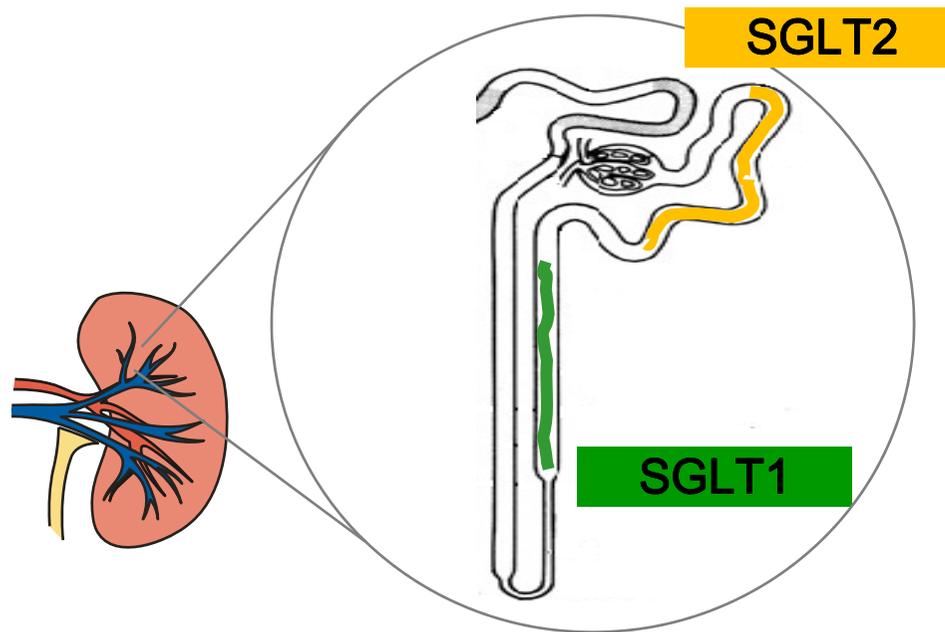
2009.4.24

2009年1月～4月主要R&Dトピックス

- SGLT2阻害剤「CSG452 (R7201)」は、Ⅱ型糖尿病を予定適応症として臨床第Ⅱ相国際共同治験を開始しました。
- Romark Laboratories社とライセンス契約を締結し、同社が海外でC型慢性肝炎治療薬として開発中のnitazoxanideについて、国内での開発を決定しました。
- 「EPOCH(エポジン)」は、無血清製剤への原薬製法変更ならびに製剤処方の変更につき承認を取得しました。
- ヒト化抗ヒトIL-6レセプターモノクローナル抗体「MRA」（予定製品名：「アクテムラ」）は、韓国での関節リウマチに関する開発・販売権をChoongWae Pharma Corporationに導出する契約を締結しました。
- HER二量体化阻害ヒト化モノクローナル抗体「R1273」は、現在ロシュが実施中の臨床第Ⅲ相国際共同治験（乳がん）への参加を決定し、年内に国内開始予定です。
- 持続型エリスロポエチン受容体アクチベーター「R744」のがん治療に伴う貧血を対象とする開発は、プロジェクトの優先順位を見直した結果開発を中止しました。

CSG452の作用機序

■ 糖の尿への直接排出による血糖コントロール



- 糸球体でろ過された血液中のグルコースは、ナトリウム依存性グルコース輸送体 (*Sodium glucose co-transporter* : SGLT)により尿細管で再吸収される
- CSG452は、腎臓内に存在する2種類のSGLTのうち、より輸送能力の大きなSGLT2の働きを選択的に妨げることでグルコースの再吸収を抑える。グルコースは尿として体外に排出されるため、血糖が低下する。

インスリンに依存しないメカニズムでの血糖コントロールが可能

CSG452への期待

- 御殿場研究所発のグローバルプロジェクト
 - 2007年にロシュへ導出、海外で共同開発

- 新しい治療ベネフィットの提供
 - 既存治療薬との差別化ポイント
 - 重大な副作用である低血糖リスクの低下
 - 消化管系の副作用を伴わない
 - 体重増加作用を伴わない(軽減効果が期待される)

 - 理論的には全ての既存治療薬と併用可能

お問い合わせ先：広報IR部

報道関係者の皆様：広報グループ

Tel : 03-3273-0881

e-mail : pr@chugai-pharm.co.jp

担当：山田、島田、荒木

投資家の皆様：IRグループ

Tel : 03-3273-0554

e-mail : ir@chugai-pharm.co.jp

担当：内田、前田、清水、時田